

校園名：名古屋大学教育学部附属中・高等学校

所在地：〒464-8601 名古屋市千種区不老町 電話番号：052-789-2680(職員室)

記載日：2016年6月20日 記載者：山田 孝 記載者役職：副校長

貴校の校風、おおまかな特色について：

中高一貫教育により、心豊かにして主体性のある人間形成を企図している。取り組みの詳しい内容は、資料を参照して下さい。

貴校の卒業生の活躍状況について：

- ① ここ10年ぐらいの卒業生については、各学年会の同窓会の担当者との会合を年に一回程度実施し、交流を行っている。卒業生の活動状況については、担当者を置き進路指導部を中心に情報を集約している。卒業生が集まる機会としては、学校祭に卒業生サロンを用意し、積極的に卒業生に学校祭に参加するように促しており、例年数多くの卒業生が参加している。
- ② 古い卒業生については、本校での同窓会の開催、施設紹介等を実施している。

魅力のある、特色のある、または、今後、公立学校へも展開できそうな先導的な取り組みなどについて：

- ① 大学との連携 大学と連携して接続入試の検討を進める。本校内に教育学部と連携して高大接続研究センターを設置した。

大学と連携した「学びの杜特別講義」を開催。この講座は、地域の高校にも開放している。

- ② 地域との連携 地域の避難所として、地域の防災会と協力して防災訓練を実施している。また、地域の防災訓練へも本校教員が参加している。

- ③ PTAとの連携 年に4～5回 PTA役員・委員と教員の会合を実施している。また、PTAが学校祭においてバザー・模擬店を運営している。また、受付や警備と言った役割もPTAが担っている。本校研究会でもPTAの協力を得ている。年に2回PTA主催による研修会も実施している。

この他にも、外部講師を招いた和装着付け教室や茶道体験教室もPTAにより開催されている。

附属学校の存在意義、貴校の存在意義について：

国立附属学校の中で唯一の併設型中高一貫校として、中高一貫校が制度化した当初より併設型のカリキュラム開発を行い成果を全校に発信してきた。また、全国中高一貫教育研究会の会長校・事務局校として研究会活動を支えてきた。全国中高一貫教育研究大会を本校で3回（今年度は平成29年2月9日に大会開催予定）開催し、研究成果を全国に発信してきた。

本校の中高一貫カリキュラムの実践の1つとして、東京大学の藤村先生のご指導を受けながら、各教科で協同的探求学習を実施している。SSH（スーパーサイエンスハイスクール）については、平成28年度より3期目の指定を受け、15年の長きにわたり取り組むことになった。SGH(スーパーグローバルハイスクール)の取り組みは、2年目をむかえている。アジア拠点としてモンゴルをフィールドとして、ウランバートルの新モンゴル高校とも姉妹校協定を結び、生徒交流も積極的に行っている。また、北米拠点としてノースカロライナ地区の高校とも生徒交流を実施している。



「イノベーション・サイエンス」を目指す人材育成
～中高大接続によるカリキュラム開発と実践～
名古屋大学教育学部附属中・高等学校

育成する生徒

- A) 多様な既存知識を関連づけて、学習した内容と実生活を結びつけて考える力
- B) 判断した根拠や因果関係について自分の考え方で説明する力
- C) 自ら設定した課題について主体的に探究する力
- D) 課題の本質を理解し、柔軟な思考の枠組みを創造する力

・課題の本質理解・課題発見・課題解決を協同で行うアクティブラーニング
教科をつなぐ協同的探究學習

第3期SSH 名大附属版人材育成カリキュラム



名古屋大学と協同研究開発

- ・高大接続入試・IB資格活用法の開発・単位認定制度 Advanced Placement (AP) curriculumの開発

SS課題研究Ⅲ

- ・本校内に設置されている名古屋大学教育学部高大接続研究センターを拠点に、大学教員の指導により発展的な課題研究を継続して実践する

高校 SS課題研究Ⅱ【PBLに基づくハオーマンス評価】

- ・「STEAM」高2必修
教科での学びを統合して、理系・文系にとらわれない柔軟な発想に基づき、イノベーションの基盤をつくる課題研究
「STEAM」=Science,Technology,Engineering,Art,Mathematics

「物理探求」高1必修

- ・理科的な材料を使って数学によるデータ分析・考察・説明を行う
理科・数学教員がTTTで行う新たな科目

「科学倫理」高1必修

- ・柔軟な思考力・論理的思考力・メディアリテラシーを育成するTTTによる、課題研究の基盤となる新たな合科科目

中學 SS課題研究Ⅰ(2・3年必修)

- ・観察・実験・体験を通して幅広い興味・関心を育成する

SS課題研究を効果的に進める特色あるプログラムクラスター

多様なプログラム

- ・課題研究の発表やサイエンスプロジェクトを米国(NY)の高校と協同で実施する(BHSECプログラム)
- ・英語での思考力や表現力を育成するALEプログラム
- ・トップ型SGUのG30と連携した授業

ICT

- ・アクティブラーニングをサポートする、蔵書4万冊を誇る図書館・情報の提供を保障・学内LANで大規模な学内接続を実現する、校内無線LANを活用した電子黒板、タブレット型端末や大型TV会議システム

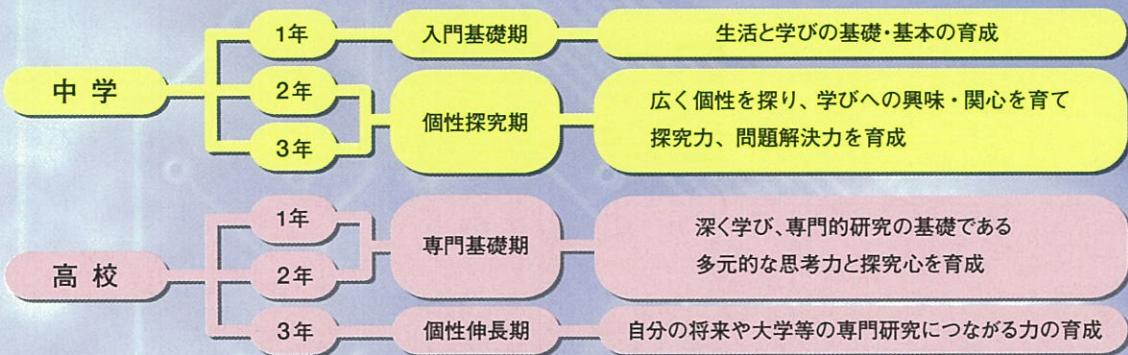
SGH

- ・SSHと同様、全校生徒が対象
・人文社会科学研究からSSHを強化
・文理が融合した新しいアイディアの創出
・SSHとSGHは車の両輪

第1期SSH(平成18年～平成22年)
「サイエンス・リテラシー」を中学・高校・大学の協同で育成する教育課程の研究開発
協同的探究学習法を大学と協同で開発する
・SSH教科、総合人間科の教育課程開発
・協同的探究学習法を大学と協同で開発

第2期SSH(平成23年～平成27年)
「サイエンス・リテラシー」育成のための教育方法・評価方法を大学と協同で開発する
・新たな教育方法と評価方法の考察

併設型中高一貫教育課程の構造図 1-2-2-1制



各教科で行う協同的探究学習

入門基礎期 (中学1年)	
新たな人間関係を基盤に傾聴、コミュニケーション、討論などの基本的な素地を育む	
課題探究Ⅰ 中学1年 総合人間科「生き方を探る」	ソーシャルライフ (Social Life)
個性探究期 (中学2年・3年)	
好奇心の扉を開き探究心を豊かに育む	
課題探究Ⅰ 中学2年 総合人間科「生命と環境」 中学3年 総合人間科「国際理解と平和」	SS課題研究Ⅰ ものづくりの基本(基準を哲学する) 身近な生物の観察 数学を探究しよう! など10講座
専門基礎期 (高校1年・2年)	
課題発見・課題解決型の学習を通して、多元的・論理的な思考力と表現力を育む ～大学での学びの基礎を築く～	
課題探究Ⅱ 高校1年生 総合人間科:PBL基礎 (Problem Based Learning) 高校2年生 総合人間科:PBL (Problem Based Learning)	SS課題研究Ⅱ 高校1年 科学倫理・数理探究 高校2年 「STEAM」
個性伸長期 (高校3年)	
大学での専門的な学びにつながる、興味・関心を育む ～自覚的なキャリアの第一歩～	
課題探究Ⅱ 高校3年生 総合人間科:PBL (Problem Based Learning)	SS課題研究Ⅲ 地球市民学探究講座 生命科学探究講座 物理学探究講座 それぞれ全10回

その他のプログラム

- | | |
|----------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------|
| グローバル拠点(国内)を活用したGlobal Discussion(高校) | 高大連携教育プログラム「中津川プロジェクト」(高校) |
| グローバル拠点(海外)を活用した課題研究(高校) | 生徒研究員制度 |
| グローバルキャリアモデルシンポジウム(高校) | スライムモールドプロジェクト、数学プロジェクト、
色素プロジェクト、チャンドラセカールプロジェクト、
ヒドラプロジェクト、相対論・宇宙論プロジェクト |
| 学びの杜特別講義(本校・地域高校対象):
人間発達科学探究講座・人文学探究講座など | など |
| 生物臨海実習(高校2年)、農場講演会・見学会 | ALE (Active Learning in English) |
| 名古屋大学全学教育科目「基礎セミナー」の受講(高校2年・3年) | |

名古屋大学教育学部附属中・高等学校

研究開発構想：トップ型SGUと一体化して「自立した学習者」を育てる

目標：ものごとの本質を捉え、国際的視野を持って探究し続ける、勇気と判断力のある「自立した学習者」を育てる

研究開発単位Ⅰ：国際的視野を持つて探究する6年必修課題研究 「総合人間科」

評価方法：Project Based Learning
評価方法：ポートフォリオ評価 パフォーマンス評価

「課題探究Ⅰ」

幅広い興味関心から
探究する心を育む

「課題探究Ⅱ」

- 中学の学びを基に、高校3年間で文理にとらわれない1つの「地球的課題」を対象に探究する、仮説検証型課題研究
- グローバルキャリアモデルとのリレーション
- ポジウム

「課題探究Ⅲ」

- 他の高校生と協同して英語で留学生と行う課題発見・課題解決型探究活動
- 名古屋大学 Global Discussion



高校



研究開発単位Ⅱ：国際的要素を身につける 協同的探究学習(既存教科)

教育方法：発問を受けての個別探究→集団による探究→再度の個別探究

研究開発単位Ⅲ：グローバル観点を活用して、表現力や判断力を身につける方法の開発

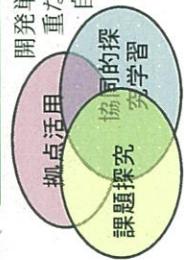
- 国内拠点 他の高校生と協同して英語で留学生と行う課題発見・課題解決型探究活動
- 名古屋大学 Global Discussion
- 海外拠点 現地の高校生と協同で行う探究型プロジェクトでの活用
- アジア拠点【モンゴル】新モンゴル高校、日本大使館、JICA事務所
- 北米拠点【米国】Chapel Hill High School、ノースカロライナ州商務省

課題研究以外の研究開発

- Active Learning in English (ALE)
(Global Issueを留学生と英語で討論)
- G30 for everyone (多様なステークホルターとの討論)
- NUPACE(短期留学生と学びを共有)
- G30 International Program (長期留学生と学びの共有)

SSHとの相乗効果

- 大学教員による連続講座 学びの杜 SSH 地球市民学探求講座
- SSH 生命科学探求講座
- SSH 物理学探求講座
- 教科の枠を超えた融合カリキュラム
- 教科の枠を超えた融合カリキュラム
- SSH 自然と科学 SSH情報と社会
- SSH は学習者にとって車の両輪



開発単位の概念図
重なり部分が真の
自立した学習者